下関市総合計画審議会
第４回活力部会
議事要旨

日　　時　令和６年７月17日（火）午前９時３０分～正午
場　　所　商工会館　３階会議室
出 席 者　若林委員、穐山委員、山田委員、吉川委員、秋枝委員、周﨑委員、
　　岩見委員、阪本委員、板倉委員、宮本委員、日下委員、西村委員（web）

議題
１　第３回専門部会と第３回全体会の振り返り（委員意見への対応と素案修正）
２　目標指標（KGI・KPI）の基準値・目標値、主な取組
３　基本構想
４　今後の予定

１　第３回専門部会と第３回全体会の振り返り（委員意見への対応と素案修正）

（委員）
〇主な取組
１章３節（2)②シニア層、女性等の就業機会の拡充
素案では「市内企業に対して、シニア層や女性、障害者の雇用の確保、さらには外国人材の活用に向けた働きかけを行います。」とある。
ハローワークの立場から見た時に、市は幅広い人材の就業機会の確保のために企業訪問も行っている。この幅広い人材には障害者も含まれており、訪問以外にも面接会や就職困難者を採用した場合の助成制度もある。こうした制度の周知を目的として、オンラインセミナーを開催している。素案本文に記載はあるものの、タイトルに障害者の記載がないが、積極的に記載するとよい。記載が長くなってしまうので「等」を付けたということであるが、障害者雇用の取組の意識は大事で、先ほどはソフトな意見をしたが、記載は必須であると考えている。
（部会長）
本件は 7/11 全体会において別の委員も言及していたことでもあるので、事務局としても検討いただきたい。
（産業振興部）
〇確かに現時点では記載されていないが、記載するとなれば、外国人材も含める必要がある。あまりタイトルが長くなってはいけないと考えて「等」でまとめたが、タイトルにも障害者を追加記載する。

２　目標指標（KGI・KPI）の基準値・目標値、主な取組

（委員）
〇KGI【市民雇用者１人あたりの報酬】
労働関係の業務に携わっているが、労働者の実感としてはこのようなものだと思うが、現在物価がものすごく上がり、生活苦の労働者が多くなっている。
この指標以外に、物価指数など労働者が置かれている実態が指標となるものはないのか。10 年後の目標値を見ても実態としてどうかと思う。
（事務局）
〇統計指標を取得しているのは、市内総生産というもので山口県市町民経済計算を参考にしている。これは全都道府県が取っている指標で、県単位で取っているもの。本来、GDP は生産・分配・支出が均等になるものだが、市は県レベルで統計が取れないところがあり、生産と分配という形で GDP が公表されている。その中の雇用者の報酬を市内で就業している方の人数で全体の企業と報酬の総額を割り戻した金額が掲載した数値。
〇先ほど物価高騰の話があったが、この統計は名目で基本的には各年の物価を反映したものでしかなく、例えばある基準値を持って 5 年、10 年と推測したいわゆるデフレーター、基準値を設けて物価の現状を加味する形が委員のご意見だと思うが、こちらには

市町のデータでは反映できない部分があり、今取得できるデータに基づいて数値を設定している。
〇この数字については、同じ経済圏域である北九州市が総合計画で目標指標を示しているため、参考にしながら数字を取っている。ちなみに北九州市では現状値が 463 万円となっている。それに対して 10 年後、北九州市が目指している 1 人当たりの報酬は 500 万と置いていて、同じベースで本市の実態ベースが 368 万 5000 に対して 400 万、この上昇率が 8.5%。北九州も目標の伸び率を 10 年で８％と置いているため、基本的には同じ経済圏域で、本市も北九州市並みに伸ばしていきたいということと、統計上でも比較対象が欲しいというところもあるので、同じ統計の分析数値を使っている。
〇委員の言われる物価指数は反映させたいが、国、県の広域レベルであり、市町ごとの適切な数値がないため、申し訳ないが、この名目数値としたい。

（委員）
〇北九州市が８％だから下関市は 8.5%というような考え方は私は好きではない。北九州市には今の時点で差がついている。下関市は素通りされるばかりで、情けない。もうちょっと何か考えようがあるのではないか。毎日苦労している労働者の相談を受けている。北九州市が 463 万人で下関市が 300 万人はいるが、100 万人差がついているのは情けない。
（部会長）
今後、目標値の見直しはされるものか？
（事務局）
〇〇総合計画に掲載する 5 年・10 年の数値を目標に毎年見直し（ローリング）をしている。大幅に時代背景が変わり KPI がふさわしくない、例えば統計的に取れるものが出たりすれば修正はかけていこうと思うが、原則は 10 年追いかけてどうなるかという形になる。
〇先ほど委員の発言の北九州市が８％だから下関は 8.5%というのは、これをベースに経済的な計算をする際に、まず一人当たりの雇用、報酬を伸ばすということではなく、本市の現状 9,500 億の GDP を１０年かけて 1 兆円にしたいという目標を求めた中で、どれだけの企業が GDP の雇用者報酬・分配を伸ばしていけるのか、もう 1 つは生産年齢人口が減っていく中でどれだけの雇用率を確保すれば、1 兆円の GDP が確保できるかを逆算した結果が、偶然北九州市と同じような８％になったということであって、北九州市ありきの数字ではない。
〇北九州市は GDP が今 3.6 兆円。北九州市はこれを 10 年かけて 4 兆円を目指している。下関市はまだ 1 兆円もいっていない。下関市が現状 9,500 億で、生産年齢人口が減るという状況で生産性と就業率を上げなくてはいけない。デジタル技術などの様々な技術を活用して生産性を上げながら 1 人当たりの雇用の所得を上げていきたいという形で計算した。

（委員）
〇友田川氾濫区域の近くに住んでいるが、雨が降り出して一番にすることはトイレの逆流を防ぐこと。ペットボトルなどの重いものでトイレが逆流しないようにするのが課題。下水道が整備されたらこういうことはなくなるものか。
〇この水問題は深刻で特に下水道の逆流が頻繁に起こっているが、対策はどうなっているのか。
（上下水道局）
〇大雨の際、下水道が整備されていればトイレ等に逆流は起こらないのかという質問だが、大雨が降ると下水道管に雨水等の不明水が浸入し、下水道管の水量が著しく増加した場合に逆流が発生する。特に年数が経つと下水道管に雨水等の不明水が入りやすくなる。そうした場合、通常時は管内を余裕をもって流れていた部分が雨水で満たされる。その時に各家庭から排除される汚水よりも下水道管の流れの方が強いため逆流してしまうという仕組み。
〇巡視や市民からの連絡で下水道管やマンホールの破損を発見した場合は、速やかに修繕を行う。これは道路陥没を抑制する効果と併せて、雨水等の不明水の浸入を防ぐ効果もある。
〇逆流を完全に防ぐ方法は現状ないが、各家庭から汚水が排除される部分に逆止弁をつけることによって、下水道管から水が家庭側に逆流しないようにするという応急的な手法がある。これである程度は防げるが、逆止弁にゴミが挟まると逆流が完全に防げないこともある。逆止弁は万能ではないため、デメリットの説明も行った上で、ご理解いただいたご家庭に上下水道局が設置している。

（委員）
〇KPI 「やりたい仕事を見つけやすいと感じる若者の割合」
これは市民アンケートにもある項目で KPI として設定され良かったと思う一方で、この基準値と目標値が決して高いものではないと感じている。この指標を見て下関市に帰ってこようかな、働こうかなと判断する若者は基本的にはいないと思うが、やりたい仕事を見つけやすいと感じる若者がそれほど多くないと捉えられてしまうような基準値だと目標設定する意義がないのではと直感的に感じている。
〇やりたい仕事を見つけやすいというのはまだ見つけていない状況の人か、あるいはすでに就職している人もそのような使い方をするのだと思うが、自分らしく働けていると感じる若者割合とか、肯定的な捉え方ができるものや、基準値を非常に高く設定できるものがあれば良いと思ったので検討いただきたい。
仕事を見つけるのではなく、今、働いている人の実感も示される指標があれば良いのだが。
（産業振興部）
〇基準値が今 17%ということで、確かに高ければ高いほど良いが、目標として取り組んでいく中で、目標は基本的に達成すべきことだろうという考え方がある。あまり夢ばかりでもいけないため、現実的にこのぐらいに設定しようと考えた数値であったが、今後

10 年間で目指すべき水準として、目標値の見直しを行う。
（部会長）
〇指標自体をもう少し検討できないかという意見だったが、アンケートを取る中でここに利用できそうな内容というものはあったりするものなのか。
（事務局）
〇市民アンケートでは、今働いている人に対して聞いている内容は捉えていない。別の部会の KPI であるが「若者が活躍しやすい環境が整っているか」を挙げている。これは先ほど産業振興部が言ったように、基本的にやりたい仕事が見つけやすいというものはターゲットを絞っており、市の現状の施策でどこまで受け皿が形成できているかを踏まえているので、目標値は検討するが、一方の「若者が活躍しやすい環境が整っているか」については KPI の目標値を少し高めにとっている。
〇若者が活躍しやすいというのは、仕事はもちろんのこと、趣味嗜好でやっているパフォーマンスや起業も含めて、挑戦がしやすいか、幅広い指標で、今 11％しか活躍しやすいと思っている若者がいないという現状を、10 年後に 34％に持っていこうというもの。先ほどの「やりたい仕事を見つけやすいと感じる若者の割合」に比べるとかなり高いが、根拠としては「全く感じない」「どちらかというと感じない」という人が実に 40％を超えている。その数値を上回りたいと考え、どちらでもないという人を挑戦しやすいと感じるようになってもらうことを目指し 34％と設定している。
〇若者にターゲットを絞った「やりたい仕事がみつけやすい」の代わりになる指標としては、「若者が活躍しやすい環境が整っているか」で考えたい。

3　基本構想

（委員）
〇1 つ目は市長の話の中で「ワクワクする総合計画」があった中で主な課題の位置づけよりも、課題は伸びしろでもあるため、「課題と可能性」というような表現をした方が良いのではないか。例えば SWOT 分析のような形でこういったものが課題である、しかし、このように考えれば伸びしろ、強みになるという風な感じだ。
〇2 つ目は下関市ではなく北九州市や広島市の課題としても読めるようなものが多い印象があるということだ。例えば、本市を取り巻く社会的背景は、日本全体で世界のことを整理しているが、それとの違いが分かりにくい。また、我々の担当部会ではないが、(3)の子ども、子育て、教育などは何を考えていくのかが分からない。
〇3 つ目に人口減少の解消が下関市の最大の課題である中で、事務局の説明では全ての施策が人口減少対策の施策につながっているという話があり、まさにその通りだとは思っているが、そうであれば、人口減少が最大の課題であるということと、それを構成する課題をいかに因数分解、整理したかという書き始めにした方が全体の流れがわかりやすいのではないか。

（事務局・こども未来部）
〇まず２つ目の意見、（３）子ども、子育て、教育について北九州市や広島市と課題が一緒ではないかという部分については、国の「こども未来戦略」をベースとして書いているため、ここは部会は異なるが、本市の色を出せる形はないかと考えた。教育については生き抜く力という言葉で下関市の特性を出しているところもある。やさしさ部会での指摘も踏まえ、基本構想の表現を改める。
〇1 つ目の課題は裏返せば伸びしろになるという部分。以前、事務局が人口減少対策もしくは人口を増やすという形については自然減が圧倒的に多い中で難しいという認識の中で人口減少化にあってもにぎわいと活力に満ち溢れる誰にもやさしい持続可能なまちづくりという取り組み姿勢をベースに２つの柱、暮らしやすいとか住みよいまち、もう１つは若者でにぎわうまちという大きな目標を据えて 10 年後のまちにしよう。これは後ほど説明しようと思った部分だが、これをまちづくりの理念として掲げようと思っている。
〇この流れについては本市を取り巻く世界的、日本の背景から本市の課題、そしてそれを打開するための基本計画という形で持っていきたい。ただ、それだとワクワク感が欠けてしまうというのはその通りだと思うため、まちづくりの理念で 10 年後どうしたいのかをいかに示せるかというような形で整理している。
〇他の章でいえば（５）都市基盤と生活基盤の分野の公共交通と空き家問題と防災という括りで作っている。この部分については、市民アンケートの中で聞いている。また中高生の中で下関市の不便な部分、特に中学生についてはもし私が市長だったらこういうことを進めたいというような意見、これらを市民の声として聞いている。公共交通、空き家問題、防災というのはグローバルな地方の問題であり、どの地方行政でも共通している課題ではあるため、どこまで下関市の色がついた課題という形で整理できるかは分からないが、調整を図っていきたい。

（委員）
〇何度も同じことの指摘になるが
社会的背景の（3）経済労働環境の変化・人への投資
誰もが活躍できる社会に女性・高齢者に加えて障害者を入れていただきたい。
（産業振興部）
〇ご意見を踏まえ、障害者を加えた記載とする。

（委員）
〇人口流出が増えている地方都市の広島や富山といった地域は参考にしているのか。人口が入ってくる東京などの関東圏、東京以外に増えている都市部の経験などは参考にしているのか。なぜ増えているのかを聞きたい。
（事務局）
〇人口、特に社会増減の話だが、本市が単年で 3,500 人減っている。そのうちの 1,000 人が社会減、あとの 2,500 人は出生と死亡の差、いわゆる自然減という状態。自然減を

減らすのは難しい。本市は大体出生が 1,400 人、死亡が出生数プラス 2,000 人亡くなっている。
〇一方で社会流入増、いわゆる転入超過については、本市が 1,000 人減っていて、移住先は基本的に北九州市、福岡市という形となっており、意外にも東京一極集中といいながら東京圏が多いかというと経済圏・生活圏で近い福岡市が多いという形になっている。そのため当然、福岡市の施策を意識しているが、福岡市の何がいいのかという部分になると１番は交通の利便性だ。それに加えて、資本が集積され企業や若者がチャレンジできるような環境が整っていることを踏まえて、本市で置き換えて考えると、例えば産業で言うと福岡市では人材育成がスピードアップしている。その中で下関市の中小企業にはそれぞれ総務部などがない。その場合にどうやってリクルートで勝てるのかどのように人材育成をするのか。そしてデジタルだけの人材を抱えるだけではなくて、経営者は経営もデジタルもできるような複合の人材も取り扱わなければならない。
〇そのような弱い部分をどのように補い高めていけるかという視点を持ち各部局、特に産業系が今回の基本計画の素案を策定している。

（委員）
〇基本構想の構成（１０年後のしものせきは・・・）の部分で菊川や豊浦が抜けている。そうした地区も考えて入れてほしい。豊浦も過疎地域に指定され気落ちしているため、豊北、豊田が記載されているのであれば一緒に記載するように考えてもらいたい。
〇私は下関で生まれてずっと過ごしているが。海峡、歴史、観光という言葉は使い古されて定着している。未来都市は若者のためにあっても良いと思う。安岡複合施設が「やすらガーデン」と命名されたが、今皆が望んでいるのは安心、安全、そしてやすらぎ、やさしさが伝わる市になって欲しいのが主な意見。特に高齢者はそういう意見が多い。火曜日のバスは高齢者でいっぱい。コミュニティバスの充実も含めてやさしさ、やすらぎ、安心、安全が伝わるようなキャッチコピーを私は切に望む。観光や歴史や海峡のまちは、下関市では使い古されているから私としてはもう十分。

（委員）
〇キャッチコピーの決め方についてだが、今のやり取りによって決めるものなのか。市民が思いを込めたいキーワードを上げていって組み合わせが生じるものが大きいと思う。この議論や、全体会においてこのキャッチコピーを決めるのに限界があるのではないかと感じている。キャッチコピーとして込めたいワードを各自が上げて、ここで集約していくとかの形が良いのではないかとは思う。
〇私が１つ考えているのは、若者に手を取ってほしい、知ってほしい、ワクワクしてほしいという部分で考えると、キャッチコピーが１つである必要はないと思っている。というのも世代別で届けたい層に対して最終的に冊子化することを考えると、どこにその冊子を設置してどこに配布したいのかを含めてキャッチコピーを合わせた方がいいと考えている。若い世代がカフェに置いてある何気ない冊子のように取っていくような想定をした方が面白い。キャッチーなロゴや覚えやすいワードなどを市の新しいコンセプト

として覚えやすいワードを設定し設置すれば、きっかけとなって取り組みなどを知っていくのはいいことだと思う。一般の企業や上の世代に向けても市としてちゃんとしたものがあるということをアピールするために固い形式のものを別に作ってもいいと思う。
〇意見の上げ方や表紙のデザインについてどのように一般公募するのか、今まで通り写真をはめて終わりなのかが気になっているので、方向性などどの程度柔軟になるのかを伺いたい。
（事務局）
〇委員の発言のとおり、誰がこの総合計画を手に取るのかという所で変わってくると思う。例えば京都は基本的に総合計画のキャッチコピーと観光のキャッチコピーは違う。それは目的が異なり、ターゲットが違っているから。それを考えると１つにこだわるかというという議論がある。全員にとって１つ、各年代層、部会を３つに分けて、章は８章ある。それを１つで括れるキャッチコピーはなかなか難しい。そのため、ターゲットを分けるという提案はありえると考えている。決定方法については、まだ事務局で整理してないが、部会にキーワードを提供してもらうというのは１つあると考えている。その上で、決めていくのは当然コピーライターなどの専門家に、この総合計画の議論や市民アンケートを踏まえ、場合によっては委員からのキーワードを踏まえて決めていきたいと思う。
〇デザインについては、総合計画の答申をして、議会の議決を経て来年１月～3 月末に冊子、HP に掲載するためにデザインを考えることになっている。キャッチコピーをデザインを踏まえて作るかどうかは検討中だが、少なくとも先ほど委員が言ったように誰に見てもらい、誰に手を取ってもらうかを意識したキャッチコピー・デザインは専門家に意見をいただいた上で作成していきたい。

（委員）
〇今質問があったことに関連して基本構想では地域別まちづくりとして地域をイメージ付けてゾーン別に分けている。だから年代で分けることとこの地域で分けることは共通性が高いと思う。そういう意味でキャッチコピーはそのような分け方ができるのではないかと今話を聞きながら考えた。しかし、地域によっては良い部分や身近な言葉を書き連ねると覚えにくい、長い、また特化したような表現になってしまうため、地域の年代別で作る。それであれば皆さんに受け入れられるのではないかと考えている。
（事務局）
〇この場はアイデアをもらう場であり、自分がこれは良いかというコメントはしないが、１ つで全員共通というキャッチコピーは不可能だと個人的には考えている。その中で、実際にどういった形が愛着があるのか、地域のパターンや年代別のパターンとなると多種多様になると思う。どうやって手に取ってもらうとか意識してもらうというのは意見を聞きながら専門家と相談して検討したい。

（委員）
〇今話を聞いて思ったのは今回、部会が３つに分かれていて、それぞれ関心のある分野

や、強みとする分野が違うと思う。市民はこれだけの分量の総合計画を見てお腹いっぱいになってしまうと思う。これを手に取ること自体にハードルがある以上、例えば３冊に分けた冊子をもっと小さいライトな冊子としてつくる。その冊子を３つ集めたら１つの面白いデザインが含まれるという形。３ つの冊子は表題は共通だが副題が違い、年代ごとに刺さる内容に分けて始めた方が意見が出やすいのではないか。それぞれのターゲットにあった冊子をつくり、それぞれ置く場所を変えても良いと思う。紙媒体は若い世代で最近再びはやりつつある。大学などに置いて手に取って話題にしてくれるようにしないともったいない。

（委員）
○1 つ目は 10 年後の目標指標④の若者の社会減０だが、その他の指標は下関に残っている人を対象としている目標のため、比較的達成はしやすいと思う。一方、社会減は、下関よりも他の地域に魅力を感じて出る方がいて、０にするための施策が個人的には十分とは言えない状況だと思う。兵庫県豊岡市は若者回復率という指標を設定している。豊岡市の場合、10代の市から流出した数と20代で豊岡に流入した数を比較しているが、こうした指標のほうが現実的且つ困難ではあるが、現実的で達成可能な指標になるのではないか。
○2 つ目はキャッチコピーについてだ。やはり短い言葉でまとめた方が良いと思う。だれに見てもらうかという観点から考えると、市民に覚えてもらいやすく、市外の人が受け入れやすく、関係人口、移住人口につながるようなものが望ましい。例えば、夫婦で移住を考えたときに、このようなまちなら調べてみようという興味を引かれるもの。個人的にはキーワードは２つ、「挑戦海峡都市」と「未来」。下関市は日本の歴史が変わる局面で必ず出現しているエリア、言い換えると下関市が日本の未来を切り拓いてきたという実績は日本国民であればある程度納得できるのではないか、先ほど観光と歴史はもう十分という意見もあったが、他の都市間競争で差別化しやすいのは、やはり歴史と海峡の景観ということになるのではないかと思った。
（事務局）
○若者の39歳以下の社会減０という点だが、若者回復率について豊岡市についても色々調べた。5 年前の人口と 5 年後の層がどれだけ変化しているのかを追いかける数字だと思うが、これを取り入れようと思った場合、KPI に設定するのはどうかと思った。ここはワクワクの部分なので、達成できるかできないのかというと達成できないかもしれない。先ほど言ったように 100%にすればいいじゃないかという意見と、100%には絶対できないと思うという意見。それを中途半端に弱気になって 95%にすると中途半端という意見。この部分に関しては社会減０にしたいという思いで設定している。当然、今の施策で０にできるかと言われれば難しい。しかし、社会減は 10 年後全体数が減っている。おそらく若者も減って年 300 人台になるはずで、だから目標に近づくというわけではないが、できる出来ないは抜きにしてどこをどうしたいのかを踏まえると、この書き方が良いのではないかと思う。
○逆に若者回復率という特殊な指標を設定するよりも、社会減０とした方が響くのでは

ないかというのがここの部分。現実的な理論武装や妥当な数字にするのは KGI、KPI で捉えている。基本計画の進捗を管理して 10 年後こうなればいいという意味の表現で社会減０と書いた。現実的にできるかできないかと追及されると無理だとも思われる。しかし、それにできるだけ近づけたいという思いで書いた。

４　今後の予定

以上